# お城だより

4
2004.4.25

福岡城址の写真

## 桑原会長追悼

福岡城四百年記念事業副委員長
藤香会副会長　中島　敏行

福岡城四〇〇年記念実行委員会が三月末で発展的解散をすることになりました。顧みますと昨年、黒田如水公没後四〇〇年遠忌大法要を、藤香会を中心に実施、これを機会に如水公のご遺徳を顕彰するとともに、その子長政公と精魂を傾注して築城された広大勇壮な福岡城を考え、将来天守閣復元という夢の実現を期して実行委員会を立上しました。短期間でしたが実行委員の方々の献身的な努力と、賛同された会員の皆様のご支援で、第十五代長久様ご当主をお迎えし菩提寺崇福寺における法要を厳修、墓所の灯篭移設、墓碑名整備などの記念事業を行い、また黒田家ゆかりの五都市のサミットを開催、今後定期的に事業交流を行うことなど「黒田都市サミット宣言」を採択、多彩な記念事業を展開、市民の皆様の福岡城への関心を深めることができたと思います。

故桑原会長は身体の不調にも関わらず、何度も開催した実行委員会に出席、構想を発表しリーダーシップを発揮されました。本番の行事の折は悪化し参加が叶わず残念だったと存じます。事業終了後、お見舞方々報告に伺いましたが殊のほか喜ばれました。

実行委員会は一応けじめをつけて解散しますが、その成果は福岡市の将来構想の基礎となりこれからのスタート台として整備されていくものと期待しております。故桑原会長の遺志は必ずや継承されるものと信じています。

最後に綿密な企画のもと、実行された岡部事務局長と事務所提供などご支援下さった黒田奨学会に対し深甚の謝意を表し、お礼のことばを記します。

# 特集 お城エピソード

## 福岡城の堀の近代史

福岡市博物館学芸員　太田暁子

城の周りには堀があります。現在、福岡城跡には、北側の明治通沿いの堀、南側の護国神社前の小さな池、大堀を埋め立てて面積が半分ほどになった大濠公園内の池があり、かつての堀の面影をわずかに残しています。

この百年の間にすっかり埋め立てられて、市街地の一部になってしまった堀もあります。赤坂門から現在の大名・天神を南北に分断するように那珂川まで延びていた佐賀堀（肥前堀）・中堀という二つの堀です。赤坂門から現在の天神西通あたりまでが中堀、それ以東、天神中央公園あたりへ延びていたのが佐賀堀です。

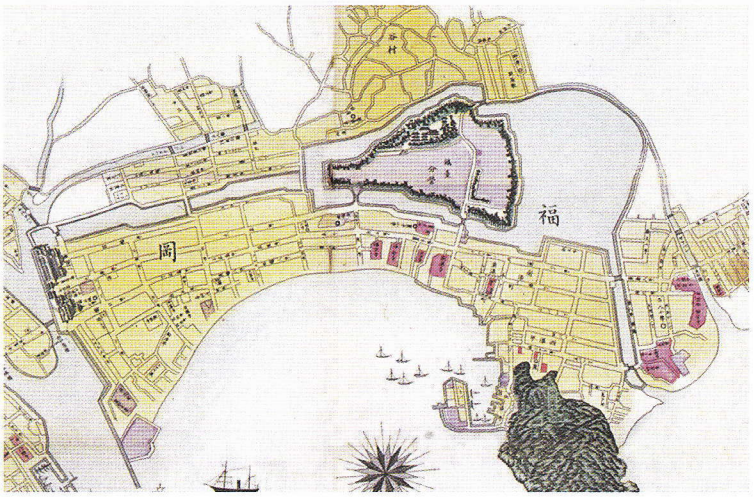
明治一〇年代、この二つの堀は福岡県に払い下げられ、勧業試験場として活用されて、レンコンの栽培が行われていました。堀からは、レンコンの売却益や、土手の使用料などの収益を見込むことができる状況でした。明治二五年頃、この二つの堀の払い下げをめぐる問題が起きました。県から堀の払い下げをうけ、それぞれの目的のためにその収益を使おうとする団体が二つ現れたのです。

一方は、東公園の維持管理にあたっていた博多の住民の団体である愛園会です。実は、これ以前に、西公園の維持管理にあたっていた福岡の住民の団体である愛勝会が、西公園の整備のために大堀からの収益を使うことを許可されており、おそらくは、愛園会もそれにならったのでしょう。

もう一方は、修猷館と光雲神社のために堀の払い下げを願い出た有志でした。彼らは、黒田家を頼り、実際の払い下げ願は、黒田家から、修猷館のために収益を使うとして、福岡県に提出されました。これは、岡山で旧藩主池田家が、病院用地として土地の払い下げを願い出て許可された例があり、旧藩主からの払い下げ願が許可されやすいと思われていたからでした。光雲神社には堀の小作料という名目で、修繕等に必要な費用が渡る段取りになっていたようです。

結果的には、佐賀堀と中堀は、黒田家へ払い下げられました。堀からの収益は、修猷館のために使われ、修猷館が完全に県費で維持されるようになった後は、帝国大学（現・九州大学）の誘致のために使われました。また、堀を埋め立てた土地の売却益は、奨学基金に組み込まれるなど、二つの堀は、近代の福岡の教育のために大いに活用されたのです。

佐賀堀は明治の末、中堀は大正の末に埋め立てられ、市街地の一部になりました。城の西側の大堀が埋め立てられて大濠公園ができたのは昭和の初め。福岡城の堀はその姿を変えながら、教育や都市整備など、福岡の近代史に深く関わったのです。




明治二〇年頃の福岡（福岡市博物館蔵）

## 中山平次郎と玄外和尚の福岡城址

荻野　忠行（藤香会理事）

中山平次郎が病理学者として東大から九大に赴任してきたのは明治三十九年（一九〇六）であった。弥生文化を研究することが出来る福岡の地は願ってもない地であった。「鎮魂祭とどんたく」の二日間は福岡城址内の歩兵第二十四連隊兵営が市民にも開放される。

大正四年（一九一五）その日中山平次郎は本丸（当時はえいじゅ衛戍病院）の下の武器・被服庫近くで「布目・蓮華紋瓦」を見つける。『三代実録』のこうろ鴻臚館と『万葉集』古歌からつくし筑紫のたち館は時代は異なるが場所は同じで、その所在地はかんない官内町（「那珂川ト比恵川ノ間ノ中島」）とされていた従来の博多部説を否定し新たに福岡城址内説を提唱した。彼の説が実証されたのは昭和六十二年（一九八七）十二月奇しくも桑原敬一福岡市長の時だった。かくして京都・大阪では未だ特定されていない福岡の鴻臚館が世に知られることになる。

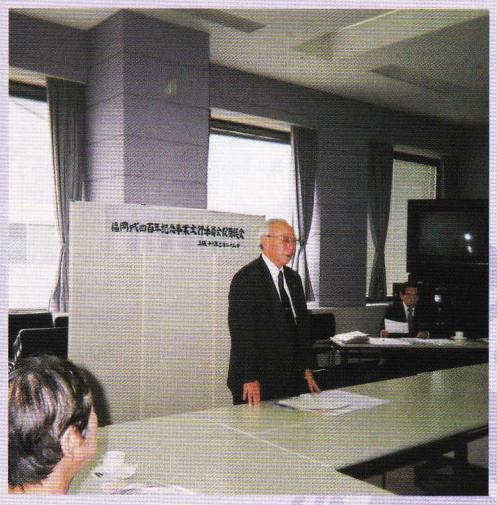
他方、明治末期から大正初期にかけて福岡城址に残るやぐら櫓や本丸御門を「貴重な歴史的建築物」とみて、破棄から守るために熱心に有料払下げ申請を行っていたのが崇福寺のげんがい玄外和尚であった。玄外和尚は明治四十一年（一九〇八）に三の丸の「汐見櫓と花見櫓」を、大正四年から大正七年（一九一八）にかけて本丸の「本丸表御門・祈念櫓・月見櫓」を福岡市長を通して払下げ申請を行っていた。浜の町黒田家別邸への「武具櫓・本丸裏御門・（伝）塩見櫓」の移築復元も大正五年（一九一六）のことである。

景勝の赤坂山丘陵は万葉文学・鴻臚館（筑紫館）・福岡城郭と、宗教のしゅげんどう修験道・けご警固大明神・にゃくいちおうじ若一王子社が織りなす、西都太宰府に通じる希有な歴史文化の土地であった。

# 福岡城四百年記念事業実行委員会の報告

黒田如水公没後四百年を起縁に「福岡」と云う名前の起因から広がる我々の故郷の再認識と、巨大なる福岡城跡の価値共々に福岡市民へアッピールして行こうとして会が生れ早や一ヶ年がたちました。多彩な行事や情熱をもって当った会長桑原敬一氏の突然の逝去等、色々ありましたが去る三月二十二日役員総会を開催、今回の「会」趣旨が大成功理に完了し、更に將来へ向かって、この一年間の記念すべき本会を解散いたしました。

法人会員、個人会、特別協力団体各位に対しまして厚く御礼申し上げます。



中島副会長の最後のあいさつ

## この一年間の事業内容概要

### I 本会の設立

平成15年2月23日左記の内容を定め、役員総会の決議により4月1日よりスタートする。

◎事業趣旨の設定　◎会則・役員の選任
◎事業目標の設定　◎総会の開催
◎役割分担の決定　◎事業開始

### II 目標

会員募集／500口　個人@5,000円
団体@10,000円→実績521口
事業予算／1,100万→修正1,200万
→実績1,300万

### III 記念事業（主催及び協賛）

一・4月8日　発表記念「桜の観遊会」を開催する。（於福岡城跡）〈300人参加他一般200人〉

二・5月2日～4日　祝うたァ!!福岡城400年記念「博多どんたく港まつり」を福岡市民の祭りの中に位置付け黒田家ご当主ご家族の来福を頂き、130年振りに正式に一束一本の儀礼を行う。☆祝賀大パレードに25騎の武者行列を行う。〈祭礼全体で200万人〉

三・7月1日～5日　博多祇園山笠夏の祭礼の飾り山笠に福岡城400年を記念して天神ソラリア1Fロビーに16番山笠「城郭悠然黒田藩」を博多人形師置鮎正弘氏によって建立する。尚新天町の子供山笠にても取り上げて頂く。〈祭礼全体で300万人〉

四・8月6日～7日　福岡城黒田家ゆかりを訪ねての観光案内を、ボランティアのガイドで行う。バス2台分参加〈1,100人の応募ハガキより〉

五・9月11日　〈仲秋の明月〉福岡城跡の観月会を開催準備行うも台風襲来の為残念ながら中止する。

六・9月15日　姫路市での黒田25騎フォーラムに参加する。〈600人〉

七・9月23日～11月24日　「黒田と歴史の弓・鎗・鉄砲」展を福岡市博物館にて開催する。特別展とし観覧料を無料とする。〈推定23,308人〉

八・制作物
①お城だより
創刊号6月25日5,000部
第2号9月25日3,000部
第3号1月1日3,000部
第4号4月25日(3,000部)予定
②福岡城跡散策マップ　3万部
③城紋幕9m×1.8m　2張
④黒田如水公　年表　1巻
⑤会員バッチ並びに会員証　600セット
⑥黒田25騎手拭　200枚
⑦黒田25騎カレンダー　1,000部
⑧入会のしおり他　1,000部
⑨黒田節物語小冊子　1,000部
⑩荻野忠行氏　如水公四百年忌　籠・福岡城天守閣!!出版

九・8月30日～31日　中央区市民フェスティバルに協賛。タイトル表示他ラジオ・イベントに参加する。於平和台城跡公園内鴻臚館広場にて〈10万人〉

十・卓話・講演事業
◎会長他　13回「築城400年をテーマに」
◎岡部他　10回「福岡城物語り」

十一・記念ツアー　六端城めぐり
①9月20日(西日本新聞旅行)50名
②10月18日(西日本新聞旅行)50名
③H16年3月27日(西日本新聞旅行)50名
晋州城(韓国倭城)11月5日～8日(西日本新聞旅行)18名

十二・10月25日　黒田都市サミット(三部構成)5都市首長出席付帯行事いろいろ於福岡市国際会議場

※黒田都市サミット宣言設定他　〈1,000名の来場者〉

26日　黒田如水公400年大法要於崇福寺〈300名〉

〃　福岡城跡周辺にて大茶会開催10流派参加　〈4,000人〉

十三・10月27日　黒田藩小石原焼中野窯再現事業支援　〈300名〉

十四・12月3日　黒田節協賛「民謡四人を迎え」市民檜舞台博多座公演支援〈3,000人〉

十五・H16年4月初旬　福岡城跡探訪ガイド
☆その間マスコミ・ラジオ・TV等で記念行事を発表し広報掲載される。

十六・訃報
桑原会長H16年1月9日に逝去される。

十七・残された事業
①3月27日バスツアー
②4月3日福岡城跡探訪ガイド
③4月中旬お城だより第4号(終了号)の発行
④本日の役員総会後、次期対策についての事項を明記(別紙)
⑤「黒田都市サミット宣言書」を各首長へ配布
⑥黒田藩子孫の方々よりの問合せ多し

十八・H16年3月23日　決算役員総会を開催し、本会を終了する。

十九・H16年4月1日より　福岡城上の橋の現平和台前を「平和台鴻臚館前」とバス停の呼称変更に成功する。

二十・H16年4月3日　市政だよりにて福岡城探訪を募集した所300名の参加、盛会裡に終了

〈次頁へ続く〉

編集・発行／福岡城四百年記念事業実行委員会
住　所／〒810－0041　福岡市中央区大名2－2－41　サンライフ大名　308
TEL 092－741－3802
FAX 092－741－3801
デザイン・印刷／(有)セブンプリンティング

## Ⅳ　決算収支報告と監査報告

### 福岡城四百年記念事業実行委員会収支計算書

平成15年2月23日～平成16年3月22日　（単位／円）

〈支出の部〉

| 科目 | 内訳 | 金額 |
|---|---|---|
| 記念事業費 | 観桜の宴 | 1,279,118 |
| | どんたく | 80,285 |
| | 観月の宴 | 995,109 |
| | 黒田都市サミット | 4,120,510 |
| | 印刷物制作 | 2,082,758 |
| | 記念バッジ制作 | 147,000 |
| | 24騎手拭制作 | 183,750 |
| | 福岡城紋幕制作 | 735,000 |
| | 会員証カード制作 | 284,445 |
| | 会議費 | 423,975 |
| | 中央区市民祭賛助 | 100,000 |
| | 通信費 | 263,653 |
| | 消耗品費 | 194,045 |
| | 小計 | 10,889,648 |
| 事務局運営費 | 事務所貸借料 | 520,000 |
| | 旅費・交通費 | 509,319 |
| | アルバイト代 | 282,000 |
| | 通信費 | 106,427 |
| | 事務用品費 | 154,385 |
| | 藤香会謝礼 | 150,000 |
| | 雑費 | 296,683 |
| | 小計 | 2,018,814 |
| 支出計 | | 12,908,462 |
| 差引剰余金 | | 615,737 |
| 合計 | | 13,524,199 |

〈収入の部〉

| 科目 | 内訳 | 金額 |
|---|---|---|
| 会費収入 | 会員入会金 | 1,969,055 |
| | 〃 | 1,270,000 |
| | 小計 | 3,239,055 |
| 助成金等収入 | 黒田奨学会 | 160,000 |
| | 福岡市 | 4,000,000 |
| | 大手企業 | 1,500,000 |
| | 故桑原会長 | 500,000 |
| | 民謡四人の会 | 400,000 |
| | 小計 | 6,560,000 |
| 事業収入 | 観桜の宴 | 913,200 |
| | 観月の宴 | 790,000 |
| | 黒田都市サミット | 205,000 |
| | 小計 | 1,908,200 |
| 広告料等収入 | お城だより | 180,000 |
| | 散策マップ | 599,160 |
| | 城紋幕名入(42口) | 870,000 |
| | バッジ等売上代 外 | 167,784 |
| | 小計 | 1,816,944 |
| 合計 | | 13,524,199 |

### 福岡城四百年記念事業実行委員会貸借対照表

平成16年3月22日現在　（単位／円）

| 資産の部 科目 | 金額 | 負債・資本の部 科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 現金 | 79,394 | 未払金 | |
| 銀行預金 | | お城だより印刷費 | 180,000 |
| 福岡信用金庫本店 | 941,652 | 会議費(総会) | 200,000 |
| 福岡銀行本店 | 74,691 | 電話代 | 10,000 |
| 未収入金 | | 消耗品費・雑費 | 140,000 |
| 散策マップ広告料 | 50,000 | 剰余金 | 615,737 |
| 合計 | 1,145,737 | 合計 | 1,145,737 |

### 剰余金処分

剰余金615,737円は「NPO設立費用 並びに基金」とする。

### 監査報告書

平成15年2月23日から平成16年3月22日までの福岡城四百年記念事業実行委員会の決算について、監査の結果、適法かつ正確であることを認めます。

平成16年3月23日

監査委員
仁田辰治
高倉清子

## 会からのお知らせ

### この一年本当に有難とうございました。

☆　次年度に向かって

役員総会において、本会の解散終了後、本会の趣旨を生かしてNPO（特定非営利活動）邦人化へ向かって進んで参ります。改めて、又、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

☆　福岡城祉によせる思いの色々な声に驚きました。去る三月十五日号の市政だよりの小さなご案内欄で福岡城探訪をお呼びかけたらなんと三百人のおはがきとお電話の雨あられ多くのボランティアの助け人の応援で無事完了、お城の散策マップが大いに役に立ちました。

☆　子供たちの福岡城研究発表

福岡市中央区役所ロビーで去る三月福岡教育大附属福岡小学校五年二組の生徒さんたちによる福岡城の勉強研究発表がありました。

本当によくまとめてキチント整理発表されてあるのに感心いたしました。ありがとう!!

☆　福岡城趾内に発見された日本でこの場所しかない「鴻臚館」、この歴史的な価値を市民と共に共有しようと、西鉄さんにお願いして、バス停名を「平和台鴻臚館前」と改称して頂きました。四月一日より呼名がかわります。

☆　黒田家の菩提寺である崇福寺の修復が進んでいます。お墓の歴代のお殿様の名札や灯籠がきれいに整備されました。

☆　福岡城に天守閣を!!との願望の声が高くなって参りました。会員より、天守閣の屋根瓦ではないかと、㊦印の古代瓦の持ち込みがありました。只今市教育委員会へ提出、研究して頂いております。

又、天守閣の堀風の絵姿を発見、黒田藩の筆頭家老吉田家ゆかりの方よりの「福岡城遠景画」と題した6曲の絵の中に四層の天守閣が描かれてありました。今後、色々な見方、研究・専門科の皆様によって解明して頂きたい。

☆　私の家系は?先祖は?等々、江戸時代の黒田家ゆかりを尋ねてこられる方々が大変多く、事務局としても可能なかぎりお答えいたしました。

☆　この三月～四月にかけて黒田都市サミットの各首長宛「サミット宣言書」を、先日の末福のお礼をかねて手渡しをして参りました。

以上

事務局長　岡部　定一郎

## 事務局だより

福岡城四百年記念実行委員会のこの一年!!

この一年！アッと云う間の出来事でした。

多彩な自主プログラム、地域・マスコミとの協賛行事、多くの方々よりのボランティアの申し込み、黒田ゆかりのお尋ね等、大忙がしの反面、大変やりがいのあった一年でありました。心ははやれど仲々、十分に対應出来ない事柄もありました。関係各位の皆様へ紙面をかりて感謝のお礼を心より申し上げます。又一方、不行き届きや失礼の事柄などありましたらお詫び申し上げます。

この大きな行事が成功されましたのも福岡市観光案内ボランティアの方々をはじめ常時隙をみつけては奉仕された事務局次長島野均氏をはじめ、萩野忠行氏　津田慶一氏　松井亮佑氏　鶴川靖子氏　並びに黒田奨学会の役員各位より事務局の積極的なご支援に又故桑原敬一会長の秘書として最後までご尽力されました伊藤紀子氏等々事務局へ温かい差入れをされました小池玲子さんや西川芳泉さん等かぎりない方の善意に満ちたご協力のおかげでした。

誠に有難うございました。

感謝九拜